輪池雜記

五

特別
イ 5
1663
5

36 2263

灌木部

女のたまけ木

女のたまけ木ハ日向國よりふる樹の名なり葉はさゝ海の榊のやうにて表まゝ〳〵裏白こあり實ハ数十顆房をなして一顆に穀まれて赤こゝろあり〳〵こと幸実の安なるこゝ榊なり

重三年あり洋名いとゝ洋ふゝ

丹波かゝゝ大和ゝゝ伊勢國

まらとやゝゝりゝ

源邵賢著

和歌

古今和歌集巻第十　物名

ちのたるゝ木　　ちもと

みてしらしらの國よりかゝるあとをたるのさ[illegible]

用墨藏歌　　勝居

かゝりそをいたるたるのさそもこかるゝほそなり　ふゝのを

謠

弓八幡云うらとや神代の法とて今を行る

まつのこゝあるはひしろ木のをる玉ぬき木

の枝ふこゝの行をはひつゝてちゝる事歌

神あそひ　ちゝ七歌の清神物語

釋名

夫まことに花中の王たるべき事はいとく宗匠たるべし
別称小百合とうつくしの二房そなはりしをのよ曇りなくたる形をこふなりへしとぞ

釋名

[illegible]

藥名未詳

[illegible]

[illegible]の木は実はなく[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ノキと[illegible]
内[illegible]味深く酸し厚朴の効用に[illegible]
の木の皮タブノキ[illegible]
白肉褐色にして味苦く微香あり[illegible]
此根皮なり又一種大山蓮花[illegible]
[illegible]花は[illegible]
[illegible]厚朴の[illegible]
圖[illegible]花葉頗[illegible]
[illegible]厚朴の[illegible]

[illegible]厚朴と和名抄[illegible]ノキ
[illegible]用ゐるのあやまりなり[illegible]ノキの皮は[illegible]
[illegible]又薩摩厚朴と称するハタブ
[illegible]皮厚くして[illegible]
[illegible]一種小葉[illegible]
[illegible]葉は辛美にして微粉色
[illegible]家[illegible]葉紅紫なる物を
[illegible]皮白色味苦く香あり此上
[illegible]但俗無備急本草中の商州厚朴の
[illegible]ノキを別品[illegible]

[illegible]

一天

真の木蘭なるべし[illegible]
[illegible]色[illegible]
[illegible]香[illegible]
[illegible]実の形[illegible]
色のよ[illegible]
[illegible]
不凋身如青竭[illegible]白皮[illegible]如[illegible]
臓腑[illegible]
也其花有紅黄白数色其木肌細而如梓人所重又或云木蘭
樹[illegible]亦石色[illegible]顧云其[illegible]
[illegible]文如形狀[illegible]
花[illegible]

[illegible]白
[illegible]大者高五六丈[illegible]
[illegible]如蓮花香色艶
[illegible]二十日即谢石[illegible]此説乃真本蘭
[illegible]美者恐不然云
[illegible]
[illegible]

第四柳[illegible]
山の杉[illegible]
[illegible]
用[illegible]
[illegible]年木[illegible]
[illegible]

藻塩草云たまの木○木はなをゆさぶるもちの
こゝ世ふさゝふ木はなりといふ人形〻古今にはくゝ山
たつたゝまの木のゆゝしく沈さかりて枝さしあとゝ
まつたかの枝やゝ折ゝて山ゆゝしく字ひろつと

[illegible]

異しくいへるもや 垂云たまの木の年木なれば
月和ふこゝ遠曲枝葉 抄云或抄云 清賀玉樹抄
の名なり 古今集ふゝ榊のゝふあれ別の樹を
云なれ 和云たにゝ山榊 玉乃木の榊をふなり
第四抄云たまの木ゝ天子清涼位乃時之笠
山の杉をもさゝ五寸四方ほどに切て
ふもとに錦を包て庭山ふかけさ也 ゝ杉を
用まつりてゝのたまの木ゝ玉の物を掛る間之
ふをを天子位年木ゝ玉の物を掛る間之
ゝりまのゝ玉の木
ゝゝふゆゝ

弘安四二月廿日
[illegible]

苔部

かつらぎ松

かつらぎの松ハ苔影すて清名高松とよむすゑのちその
名をはやまとふよみ人しらず拾遺名のみのこ
みえつゝ見れども清水の細流れ枕冊子や始るゆきそ
降り後和歌ゆまもあらぬ花のゆふ
生たる松松ものこ松とゆて苔の名ちとゆて
てとハゞまつとも名ゆるまてゆきて

源弘賢著

色は猶よろしかるへし

清少納言枕冊子　云西の京といふ所のあはれなり
けるをもろともに見る人あらましかはとなん
おもひ侍る垣なともみな古りて苔おひて
なとかたりつれは宰相の君の瓦に松はありつ
やといらへたるをいみしうめてゝ西の方都
門をされる事いくはくの地そと口すさひにし
つる事なとかしかましきまていひしこそお
かしけれ
弘賛白氏文集西の京此意たるよしさるよと侍
るしは枕冊子新修猶しも宰相君の言
は宰相の君すくへの女房なり侍て今のあれなるに白氏文集
の驪宮高をおもひよそへてかゝるの松はありつやといへりや

くまのはしさのふるをはすさひまちしとみえたるこそ
かゝる松はありつやと驪宮高にみえたる趣なり
白氏文集巻第四　新楽府　驪宮高　云翠華不来歳月
久　牆有衣兮瓦有松　吾君在位已五載　何不一
幸乎其中　西去都門幾多地
弘賛曰翠華不来歳月久しきをいふ
驪山宮荒廃して牆には垣衣とてこけ苔おひ瓦には瓦松と
いふ苔おひたり垣衣瓦松共に小法本草　苔類なるを
枕冊子上文に苔おひてなといひつるに松はありつやといへるかいかにも面白の松は
ありやいひしはいとおかしさる苔類なる瓦松をもて論なし
緑とくその後の人よくとひさためへきをして西京の松をとの
事にてはよく知る人のかたりなす松はまことの人の心をちかへたりしを
のかたらん
見さためるへし

瓦松詩文にみゆるもしるいは唐の崔融か瓦
松賦なるへし又唐人李密氏の一篇あり供

御定歴代賦彙巻第一百二十

草木

瓦松賦有序

唐　崔融

崇文館瓦松者、産於屋霤之上、千株萬莖、開花吐葉、高不及尺、下纔如寸、不載於仙経、靡題於薬録、謂之為木也、訪山客而未詳、謂之為草也、驗農皇而罕記、豈天以在人、無用在物、無成乎、俗以其形似松生必依瓦、故曰瓦松、楊炯謂余曰、此中草木、咸可為賦、其辭曰、

賓館兮沈沈、明月高兮重海深、試一望兮上棟下

宇開陽闔陰彼美嘉族依於夏屋煌煌特秀狀金
芝兮產靈歷歷空懸若星榆而種天莽尊丰茸青
冥芊眠葩條郁毓根柢連拳間青苔而裛露陵碧
瓦而含煙春風搖兮鬱起冬雪糅兮蒼然詎充採
掇罕任雕鐫桐君莫賞梓匠難甄用匪適於時要
必濫聞於俗傳慙魏宮之烏韭愧漢宮之紅蓮觀其
衆開榮列虛心獨潔高寧我慕無木禾之五尋畀以
自安類石蒲之九節進不必媚居不求利芳不為人生
不因地其質也菲無忝於天然其陰也薄總足以自庇
望之常見其表尋之罔得其祕肅穆承華堂堂不
賒繩懸麥穗戶刻菱花竹蒼筤而衆色樹連理而相
加芙蓉發池子照爛日及懸霤兮紛葩彼懷寶以
遇賞此不材而見嗟雖有慕於階闥亦無混於泥沙已
矣哉不學懸蘿附柏直蓬倚麻固將含美惡以同貫
齊是非於一家亂曰少陽之地兮於何不春博望之苑
兮莫匪正人纖根弱植兮生君之館荷施霑恩兮
為人所翫物不謝生不知其榮惟願聖皇千萬壽
但知傾葉向時明

瓦松賦

唐 闕名

式觀圖籍幽山窮野聞卉木之名焉考神農之嘗

者根莖可驗洪纖不捨惟瓦松兮闕書何昔人兮子智
寡原其所託高而又雅抽形先寄於鶴樓聳質更資
於鴛瓦旖旎芬葩含風接霞既當春而吐葉亦凌秋
而點花異山苗之極秀狀澗松兮抽芽高居壤霤匪
雜泥沙向朝陽兮發榮經夕露兮增華常在危簷
心必直詎欲牽風影暫斜小大殊品高卑異肪離離
兮若星榆之昭灼燁燁兮疑石蒲之葱蒨既乏棟
梁之用寧怯鐫雕之變豈比夫桂山上蘭谷中長
幽隱兮銷馥為芬芳兮敗叢奚若茲物之獨茂無
憂患兮養蒙

和歌 詩附

玉葉和歌集巻十六 雜之

山家歌 中務

山びこの形見の苔は古松の瓦のうへにそめくる

かなしれはとおもふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
載

唐陸龜蒙賦云高有瓦松畢有澤蓂
唐盧綸詩云遶池牆蘚合擁霤瓦松齊
唐賈島詩云古屋瓦生松
徐照詩云螢光出瓦松

唐李華瓦松詩

華省有秘蹤、高堂露瓦松、
因春後長、花為雨東濃、彩混翠
青色、光含翡翠容、近天忻所寄
接地嘆無從、接棟疑文閣、連甍
蓋九重、寧知深澗底、霜雪歲兼
封、

李華

釋名

瓦松 深江輔仁本艸和名下巻本艸外藥云瓦松生屋瓦上似松經史證類大全本草云昨葉何草生上黨屋上如蓬初生一名瓦松引唐本注云葉似蓬高尺餘遠望如松栽生年久瓦屋上今按別本注云今處處有○本草綱目云頌曰瓦松如松子作層故名○本草綱目啓蒙云山中或八尺許及屋上自生人家亦多上七或八假山石上栽之葉尖長寸二寸許闊寸三分許甚厚似鳳蘭葉如初始八多叢生重疊千葉蓮花形如淡綠色春已後莖抽高七八寸白花長穗如嫩苗生冬經不凋其穗枯乾者似楠根枯子自落不同熟根似一種葉廣尖白色帶者ハレンゲト呼ブ此モ古瓦屋上自生ス赤瓦松ノ一種ナリ

昨葉何草 唐本艸○瓦松の和名

瓦花 綱目向天草 綱目○時珍曰按庚辛玉冊云瓦松陰草也生屋瓦上及深山石縫中莖如漆圓銳葉背有白毛有大毒燒灰淋汁沐髮即落誤入目令人瞽云云其說與本草無毒及生眉髮之說相反不可不知

赤者名鐵脚婆羅門草 綱目天王鐵塔草 時珍曰其名殊不可解○孔賢曰婆羅門ハ天竺四姓の一にて貴種にて諸王也

[illegible]

状浮屠に仏[illegible]

[illegible]

ふ[illegible]

天棚草 魯府禁方

一元木公 事物紺珠○弘賢曰元木公は元杉の二字を離合して四字とするもの[illegible]清異錄云有門生離合元杉為四字曰一元木公

昨葉 羣芳譜

屋上無根

草附方

たらのはめ 篠後ハ上六名本艸啓蒙○啓蒙云トウゲ

しば一名キチガヒシバニ

元儿古説ハ穏ナラス

匹渓

敬木奇歌集巻第九 雑部

春風の[illegible]

[illegible]

[illegible]

我やどの[illegible]

弘賢曰瓦の杉の木[illegible]杉の名をとりて杉の木[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後古今和歌集巻第十四 [illegible]

寄松意

[illegible]

師兼郷千首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酉陽雜俎巻十九 廣動植 草篇 或言構木上多松栽 誤 土木氣洩則瓦生 松大曆中修含元殿有一人
投狀請瓦且言瓦工唯我所能祖父已嘗瓦此殿
矣衆工不服因曰若有能瓦畢不生瓦松衆方
服焉又有李阿黒者亦能治屋布瓦如齒間不通
延亦無瓦松 弘賢曰此之瓦松ハ瓦ノ上ニ生ル也 又瓦粘徴ニ曰ク若シ生ル
瓦の製法粘徴ニ詳ナリ

崔融瓦松賦序曰崇文館瓦松者云〻又曰慚魏宮
之烏悲恩漢殿之紅蓮 崔公學博無不該悉豈

不知瓦松已有著說乎博邢在屋曰昔耶在牆曰
垣衣廣志謂之蘭香生久屋之瓦魏明帝好之命
長安西載其瓦於洛陽以覆屋前代詞人詩中多
用昔耶 弘賢曰烏悲ハ烏韭の誤ならん 豈石苔瓦松已有著說乎と
夢後筆談に殷成式以昔耶瓦松不知昔耶乃是垣衣瓦松自名
昨葉弘賢曰綱目に據て博邢ハ屋垣 昔耶ハ垣衣なり――。

草部

つまとりかう

今世ワレモカウ也 以州四稜あり 源氏物語捷玄ホ
小みえてふも茅香と云 茅州なり 四稜のみなり
今按 いとゆる四稜ハ茅の於一地稜 二蒼朮 三麝草
四なりこの内茅の於ハ茅香 陰物記なるべし
三稜ハよりこころとも
源氏物語匂宮 玄秋ハよの人乃めなる女房乃

源弘賢著

さ細しのはさにすめる萩乃露乃色もおもしく
はんらはし給ひする起とのたまはせさくなとらん
ゆかりの風そのけなほさられたもかゝりなそとて
すき風しさ露れのはかりひすて笑ひしすれん
見るとかすしさゆすてかよめつふ扨かりひとるん
たてくるのかすしく扨月しある

弘文日上紀書ある草ともこめて○○あり

るすこ花すいんらはこす○ふ芳卅のうちにワレモカウとかゝへてられ
芽のあるらひり地楡蒸ゐとりにするつと麝香草のこ香字あるものけ
けるすことふ○たかるくたとされは芽香あるへしといへり芽香はものけ
あさしと○ふともかるひ露れのはかひすて扨月しすてとわさとかゝしき
すて香ふめつ扨りひとるんたてくるのかすしくとて○ふよくかるすへう
なのゆへは生卅にても香字ありへく乾卅をは浴湯香印香浴倍ちく
香芽に用ること董志集類抄みへてるうへワレモカウとハワウとくいう
まる芽香といふ名の起しなるを芽へきと○かりあくあり

袂衣云かりそめはすてるとこにあらとさこらゆりすれ
のまつもかりのやとりのなりたるもつくにかゝひ
ゆくすき風しさんちすてあけるもとく
むはしはり露れふみしのまつもかゝ
秋しもとどるあるひおなり

弘文日家本印本あけとゐる

あり花ある後標まよりれあゝたり

上
暑ひとりとはへくらふてとりまめるとなけてわひ
しき扨りひあまり給ひて各ふうれ露れ乃雪
はあしらそこのゑいおもしけまこうのはなを
あかりとくるしくと枕すけまての給ふとく

五・十七

弘賢曰これハ一品宮の衣服と梗衣の許しなくて宮のまへにありけるにあなかし
云あまたなりける後のかさのかさねなとをきたりけるに〔illegible〕
〔illegible〕ハ出らまかりけるやうにてそこにいてたるをもみて
〔illegible〕院よりもこのなかより
〔illegible〕茅草なるとあるハこゝに〔illegible〕
〔illegible〕あはれなるふたつ〔illegible〕すける〔illegible〕
〔illegible〕家に秋しもとまりける〔illegible〕常の
〔illegible〕秋しもなとしてそへなりけるさま〔illegible〕草の〔illegible〕
〔illegible〕秋されるものなりさて常ハ古附衣の〔illegible〕
〔illegible〕人にありてそあはれなることなかりける
〔illegible〕あはれなる〔illegible〕くさとの〔illegible〕
〔illegible〕くとハとりなると不審なり

十寸鏡 草枕 云院ハワレモカウみれ〔illegible〕
〔illegible〕の御精衣うつろひの御袖そ紫苑色
の御衣めさ

弘賢云これ〔illegible〕以て茅
香のさ〔illegible〕

〔illegible〕

ワレモカウ
地楡草 〔illegible〕

日本霊異記ニ茅原一名吉祥草寺ト云

紛二寸引輟耕録 吉祥草 〔illegible〕 忍辱草 〔illegible〕 多々

寸○弘賢曰ワレモカウは
和名及ひ和名類聚抄に
うたにモカウとも茅香の
の轉語なるへし八雲御抄ニ
呼茅如麻と
あることもあり
茅香 本艸
茅 本艸綱目 時珍曰
藾頌圖経 復出香
茅
嗢尸羅 同上引 金光明
薫集類抄
引本艸云

[illegible]

十丈藤 茅花 云院八つまとうみつれ和見たる
玉枝乃〳〵沸物衣う浦いろ乃清を紫苑多
の沸物めさ 弘賢云これ和見たるなるべし茅
らのはすてふ母さ〳〵 香のさ母あるべかなるべしと
〳〵ことあるべし

釋名

つまとうみつれ 源氏物語桐壺巻名義詳なり寸○弘賢曰ワレモカウは
和名抄に古今和歌六帖ものすすきうたるに モカウとは茅香の
形なるべしワレモカウの称呼なるべし（一八字欠）
ちまとうみつれと号す（一字欠）と号す（一字欠）同人呼茅如麻
ふと本艸綱目茅香の陰干に本艸綱目時珍曰
つぐ〳〵 本艸啓蒙に戸○弘賢曰
すなわち香茅の字なるべし

香茅 本艸綱目時珍曰 蘊頌圖経復出香
麻一條云煎湯浴風其良此即香茅
也閩人呼茅如麻故爾今併為一

嗢尸羅 同上引金光明
経

線子檀 本艸啓蒙引輟耕録

吉祥草 薫集類抄引本艸云
茅香花唐人説崐崘之趾雪山之砌多
生此草所謂吉祥草忍辱草等是也

忍辱草

茅香

香茅

本草綱目啓蒙云茅香漢渡ナシ武州原野處〻ニ
自生アリ葉ハ白茅(ツバナノ)葉ノ如ニメ白色ヲ帶ブ夏月
穂ヲ出ススヽメノカタビラノ穂ニ似タリ根ハ白
色細長ク茅(ツバナノ)根ノ如ク土中ニ繁延ス根葉共ニ香
氣多シ葉ハ秋後ニ枯ル

經史證類大全本草卷第九 草部中品

淄州茅香

香茅軍嵐岩

丹州茅香

茅香花味苦溫無毒主中惡溫胃止嘔吐療心腹冷痛苗葉可煮作浴湯辟邪氣令人身香生劒南道諸州其莖葉黑褐色花白即非白茅香也今附臣禹錫等謹按陳藏器云茅香味甘平生安南如茅根

圖經曰茅香花生劒南道諸州今陝西河東京東州郡亦有之三月生苗似大麥五月開白花亦有黃花者或有結實者亦有無實者並正月二月採根五月採花八月採苗其莖葉黑褐色而花白者名曰茅香也

三才圖會草木三卷草類

茅香

茅類 ワレモカウ

五ノ二十四

延寶年中開板せる高野草と云草花を集
し冊子に毛氏の極と載て毛を好む頭
髻を大和本草に地榆ワレモカウ形是別ふロ
レモカウと云物あり芒類也花如穂似萩花と云
物するゆゑ是なる弘賢按すふ茅香乃精
記を形入し

地榆 ワレモカウ

玉豉　一名地榆　ワレモカウ　梁湘王紱金楼子

比叡山鞍馬及ヒ近道処々山野ニ生ス蘇頌圖経

本草ニ云令平原川澤ニアリ宿根ヨリ二月ノ中

ニ苗ヲ生ス初生地ニシク独茎直上高サ三四尺

對シ分テ葉ヲ出ス榆ノ葉ニ似テ稍狹ク細長ニ

メ鋸ノ歯ノ狀ニ似テ青色七月花ヲ開穗ノ子ノ

如クニメ紫黒色根外黒ク裏紅ニシテ柳ノ根ニ

似タリ今按ニ花ニ紅白ノ二種アリ華彙

蒼朮　ワレモカウ

五・三十六

蘆草ワレモカウ

朮 シケラ

諸州山谷ニ多クアリ春苗ヲ生ス葉椶及ニ棠梨葉ノコトシ茎蒿ノ幹ノコトク青赤色高サ二三尺夏秋ノ交苍ヲ開ク小刺蕚ノコトク苔色黄白又淡紅ナルモノアリ又三葉ナルモノアリ華稟本草綱目啓蒙云越前ニテ朮シワレモカウト云

鈴子香　ジヤカウサウ　ワレモカウ

京北山中ニ生ス二月宿根ヨリ苗ヲ生ス高サ二三尺方莖葉節ニ對シテ生ス形チ不老草ノ梢葉ニ類シヤヽ細腰ニシテ疎歯アリ莖葉ヲ採リ遠ク拂ヘハ暗ニ香氣馥郁タリ宛モ當門子ノ如シ親シク撓揉スレハ郁テ草气アリ四五月淡紫花ヲ開ク一朶ニ三蕚葉間ニ畜綴ス形チ白鉄樹花ニ似テ小ニシテ寸許圓蕚鈴狀ニ類ス花脫シテ蕚内ニ細子ヲ結ブ各〻四粒アリ　華彙○弘賢曰此ハ名ばなし義いまだ考ふ　ふ後ハワレモカウと